

令和元年度 第2回学校運営協議会 議事録

日 時 令和元年7月22日(月)15:30～16:40

場 所 逗子高等学校 会議室

<出席者>

(委員) 角田、岩佐、高橋、村川、矢島、川島、波多野、大下 (敬称略)

(学校) 校長、副校長、教頭、事務長、木下、澤野、小池、藤井、下山田、新村

<議 事>

1 校長あいさつ

- ・第1回学校運営協議会は本校合唱コンクールの参観といたしました。ご参観頂いた委員の皆様に感謝します。例年以上にレベルの高いコンクールとなりました。今後の学校行事では文化祭(グリーン祭)があります。ぜひ、ご参観ください。また、本日の学校運営協議会で委員の皆様のご関連な意見交換を期待します。

2 委員及び学校側担当者の紹介…名簿順に各自自己紹介を行った。

3 逗子高校学校運営協議会について…副校長より配布資料をもとに説明した。

- ・神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営に関する要綱
- ・逗子高校学校運営協議会のイメージ図、本校のめざす生徒像

4 今年度の目標設定について

(1)本校の特色及び取組の概要について…副校長より説明

- ・部活動、行事、地域貢献活動等を通した自主的、主体的、協同的な生徒の育成
- ・地域と連携した教育活動による生徒の社会性や生きる力の育成
- ・令和4年度末で完校→令和5年度より逗葉高校と再編統合され、新校となる。

(2)平成31(令和元)年度学校評価報告書(目標設定)について

- ・「1年間の目標」の各項目ごとに当該グループのリーダーより説明があった。

(3)質疑応答

Q:進路グループより説明があった手帳とはどのようなものか?

A:新入試に対応するために、在学中の活動・取得資格などを細かく記録させるためのもの(ポートフォリオの作成)。また、学校行事等が記されたスケジュール表があり、スケジュール管理もさせられる。

5 各部会ごとの協議

(1)学力向上部会(角田、川名、高橋、澤野、小池)

現状:学習に対しての主体性が欠ける。逆に言えば指示されたことは一生懸命取り組む。

課題:授業を通して社会的常識や生活する力を理解させることができないか。

取組方法:学校はチャレンジする生徒をどれだけサポートできるか?こけた生徒をケアするのが学校ではないか。

社会的常識を理解させるのは、生徒ばかりでなく若手教員も。

生活する力を身に着けるのは学校の仕事か?家庭でどこまでできるのか?

(2)地域連携部会(岩佐、村川、大下、木下、藤井)

現状：昨年度の反省を踏まえ、早めに計画・協議を行っていきたい。

地域インタビューでは土日も活用したい。9月30日の生徒対象オリエンテーションには文化プラザの職員が出席して講和をしたい。

ワークショップでは本年は10講座を予定している。

課題：主体的に活動する生徒の増加を目指す。

学校行事の今後について不安あり。

取組方法：今年度は学校行事に変化はない。

(3) キャリア部会(矢島、川島、波多野、下山田、新村)

現状：近年大学側も推薦やAO入試の枠を増やしている一面もあるが、AO、推薦入試が増加している。

余裕がなく視野が狭い生徒が多い。

学校説明会から指定校推薦の状況を中学生にアピールしている。指定校目当てで入学してくる生徒が多い。

内申点を重視している入試制度により、本校に入学してくる生徒はチャレンジしない、競争心がない生徒が多いのではないかと。

学年の雰囲気にもよるが、今年の3年については成績優秀者が80名もいて、意識の高い生徒も多くいる。

課題：学校の授業はしっかりやるが、大学入試に向けて取り組む生徒が少ないのかもしれない。

奨学金をもらいやすい現状もあり、深く考えずに大学進学するのではないかと。

そもそも素直で挨拶のできる生徒達なので、勉強だけに頼らない人間力を育てるのも大事。

取組方法：他校の高校生と交流することで刺激を受けることも多いのではないかと。

どのような目標を持たせられるかが課題となる。

将来というよりは、少し先の目標を持たせるきっかけづくりが必要。

先生方には様々な場面で刺激を与え、進路に対するきっかけづくりをお願いしたい。

以上